

2019年度 第2回日本肺高血圧・肺循環学会 理事会 議事録

日時：2019年6月20日（木曜）15時～17時

場所：アクトシティ浜松コンgresセンター 5階 52会議室

出席理事：巽浩一郎、伊藤正明、江本憲昭、桑名正隆、小垣滋豊、近藤博康、下川宏明、瀧原圭子、辻野一三、土井庄三郎、中山智孝、福田恵一、福本義弘、渡邊裕司、松原広己、山田秀裕、吉田俊治  
17名

欠席：伊藤浩、荻野均、佐藤徹、伊達洋至、室原豊明 5名

報告事項

1. 2019年度 第4回日本肺高血圧・肺循環学会（渡邊裕司 会長）

副会長：前川裕一郎（浜松医科大学循環器内科）、須田隆文（浜松医科大学呼吸器内科）

学会のテーマ：肺高血圧症治療の未来を拓く

渡邊裕司会長より、学術集会概要に関してご説明頂いた。

2019.6.20 EASOPH Joint meeting in Hamamatsu

PH management and activity of PH society in each country

（台湾のWang先生は4か国（日本/中国/台湾/韓国）以外にも広くアジアで友好的に肺高血圧症学会を進めて行こうという姿勢がある。韓国のChung先生に関しては、治療薬が非常に限られSurvivalも大きく異なることは認識されている。日本がきちんとリーダーシップをとっていかなければならないが、中国のこの領域における発展のスピードは目を見張るものがあり、きちんと調和をとっていかなくてはならない。）

プログラム

会長講演（渡邊裕司）

特別講演4名（M Beghetti、O Sitbon、宇都宮敬（厚労省健康局）、R Zamanian）

教育講演5名（伊藤浩、江本憲昭、福本義弘、巽浩一郎、伊達洋至）

Presidential Session「肺高血圧症の未来を拓く」

シンポジウム5セッション

パネルディスカッション4セッション

一般演題 164 演題の応募あり

共催セミナー11（肺高血圧診断スキルアップセミナー、症例カンファレンスを含む）

2. 2020年度 第5回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況（荻野均 会長）

2020年9月26日（土曜）～27日（日曜）京王プラザホテル

9月25日（金曜）International CTEPH セッション（東京医科大学講堂使用予定）

副会長：田村雄一、大郷剛、小川愛子

荻野均会長、緊急手術のために出席できず、巽浩一郎より学会準備状況を説明した。

3. 2021年度 第6回日本肺高血圧・肺循環学会 準備状況（土井庄三郎 会長）

2021年5月7日（金曜）～8日（土曜）京王プラザホテルを予定。

第3回EASOPHは学術集会と合わせて日本での開催を考慮。

第26回日本小児肺循環研究会学術集会の同時開催を考慮。

土井庄三郎会長より、学術集会概要についてご説明頂いた。

審議事項

1. 2022年度 第7回日本肺高血圧・肺循環学会 会長選出

歴代会長

第1回、佐藤徹（杏林大学、循環器内科）

第2回、西村正治（北海道大学、呼吸器内科）

第3回、瀧原圭子（大阪大学、循環器内科）

第4回、渡邊裕司（浜松医科大学、臨床薬理学）

第5回、荻野均（東京医科大学、心臓血管外科）

第 6 回、土井庄三郎（東京医科歯科大学、小児科）

下川宏明先生、瀧原圭子先生から桑名正隆先生をご推薦頂いた。参加者からの異議なく、満場一致で桑名正隆先生を理事会として推薦、桑名正隆先生にご承諾頂いた。

第 7 回、桑名正隆（日本医科大学、アレルギー膠原病内科）

報告事項

4. 肺高血圧症関係の診療ガイドライン作成（2019 年度）（巽浩一郎より報告）

「結合組織病に伴う PAH 診療ガイドライン」上梓済

「特発性・遺伝子 PAH 診療ガイドライン」作成中に関して報告した。

5. 肺高血圧症治療ガイドライン フォーカスアップデート（福田恵一 ガイドライン作成委員長）

2019 年 4 月 27 日（土）午後 13～14 時、

会場：愛知県産業労働センター ウィンクあいち 1308 にて会議を開催

日本循環器学会、日本肺高血圧・肺循環学会共通の「PH 治療ガイドライン（2017 年改訂版）」が 2018 年 3 月に日本語版、2019 年 3 月に英語版が出版された。日本循環器学会ガイドライン部会では、できあがったガイドラインをそのまま 5～6 年放置するのではなく、2～3 年に 1 回フォーカスアップデートするようにすることになった。肺高血圧症の領域では 2018 年に NICE 会議が開催され肺高血圧症の診断基準変更の提唱があり、現在エビデンスが集積されている状況である。フォーカスアップデートは延期とした。

第 6 回ニース会議の日本語版出版に関して（巽浩一郎より報告）

ERJ に掲載された NICE ハイライトの日本語版が ERS から提供される予定である。本学会会員には無償で配布する予定であるが、翻訳費用・作業負担が本学会会員負担となる可能性がある。本学会として協力していくことはフロアから異議なく、学会として作業を進めていくこととなった。

6. 学会レジストリーの整備（巽浩一郎より報告）

JAPHR コンソーシアムをベースにした NPO 法人を設立予定

2017 年の理事会にて、日本肺高血圧・肺循環学会の PH レジストリーとして JAPHR (Japan PH Registry) Platform を I~V 群のすべてを含む形としてお認め頂き、適切な運用をすべく継続努力中。

AMED からの要請あり、JAPHR (Japan PH Registry) Platform に関して、特定の大学組織から独立した企業連携の受け皿になる NPO を設立しレジストリ運営を行っていく将来像が求められた。AMED は現在「医療研究開発革新基盤創成事業 (CICLE)」の考えを打ち出しており、積極的な産学協同研究の推進を図っている。

AMED の要請により、JAPHR を臨床試験開発のプラットフォームになるレジストリに発展させる中で、JAPHR コンソーシアムをベースにした NPO 法人を設立することを計画。学会から代表者を社員として推薦、派遣するという形式をとる形になる。このような運営方式は、欧米のレジストリーではとられている。日本からデータ発信可能なレジストリー構築のためには、最初の登録のみでなく、継続的な追跡調査が必要になる。そのための運営費用を、企業が入れやすい形にする。学会レジストリーの場合、企業の資金協力が困難である。可能であれば CRC の雇用も考えている。NPO 法人の形式をとることで、レジストリ自体は独立した形で継続的に運用可能。レジストリー登録は、日本肺高血圧・肺循環学会の会員の先生から、レジストリーからの情報発信は学会から。

NPO 法人の設立要件をふまえ、立ち上げ時の社員として（役割分担）以下の構成とする予定である。

理事（2 名）：巽浩一郎（難病研究班）・田村雄一（JAPHR 研究責任者）

社員（9 名）：田邊信宏（3 群 PM）・杉村宏一郎（2 群 PM）・阿部弘太郎（4 群 PM）・宮田裕章（NCD）・隈丸拓（NCD）・古澤嘉彦（難病プラットフォーム）

肺高血圧・肺循環学会から推薦された理事 2 名（桑名正隆、松原広己）・村上紀子（患者代表）

監事（1 名）：佐藤徹

NPO 法人、社員の方々への報酬はなし（企業からの報酬もなし）。

## 7. 小児 PH レジストリー（土井庄三郎より報告）

成人と小児では臨床像が異なる状況があり、同じ 1 群であっても成人の JAPHR と同じプラットフォームでは困難である。小児 PH というカテゴリーを作り、1)先天性心疾患に伴う PH、2)IPAH/HPAH、3)Developmental lung disease に伴う PH の 3 つの subgroup に分けて小児 PH レジストリーとして作成する予定である。

小垣先生より追加説明：

Developmental lung disease には新生児領域で既にレジストリーがあるが、肺高血圧症に関する項目は乏しく、統合は難しい。新しくプラットフォームを作る必要がある。

巽：Developmental lung disease はひとまず保留として 1)先天性心疾患に伴う PH、2)IPAH/HPAH の枠組みを作っていくのが良いのではないか？厚生労働省からは小児慢性特定疾患から成人指定難病へのシームレスな移行の要望もある。

松原：JAPHR には親権者からの同意等の項目もないため、小児を現在の JAPHR プラットフォームに組み込むことは困難。やはり新しく小児 PH の枠組みを作る必要がある。

## 8. レジストリー登録に対するインセンティブ

レジストリーは必要だが、インセンティブが必要ではないか。→ 学会として PH 専門医制度、認定施設制度を設計して、レジストリー登録が専門医、認定施設に必須とする方向性での制度設計を試みる。

レジストリーに登録して頂いた施設は、肺高血圧症認定施設候補とする？

本学会は多岐に亘る診療科の先生方の集合体なので、統一的な専門医制度の確立は困難

しかし国民に対しては、肺高血圧症診断、治療専門施設を示したい。その基準をどうするか継続議論が必要である。

## 9. 学会と肺高血圧症に関する政策研究との連携（学術集会の中で、政策研究会会議）

6月21日（金曜）13~15

6月22日（土曜）7:50~8:50

AMED「慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリ研究班（研究開発代表者：阿部弘太郎九州大学）」

AMED「産学官連携を加速する肺高血圧症患者レジストリ Japan PH Registry の活用研究班（研究開発代表者：田村雄一 国際医療福祉大学）」

平成 29 年度に日本肺高血圧・肺循環学会は、支援する肺高血圧症患者レジストリを Japan PH Registry (JAPHR) に一本化しました。これまで JAPHR は厚生労働科学研究費補助金および AMED 研究費の支援を受け統一化された JAPHR Platform を用いて JAPHR-PAH:1+5 群・Japan Respiratory PH Study (JRPHS) : 3 群・CTEPH AC Registry:4 群の 3 つのプロジェクトが登録可能になっており、2 群に関しても登録開始になりました。

AMED 採択 JAPHR 研究課題は、厚生労働省が推進する「クリニカル・イノベーション・ネットワーク (CIN)」構想に合致した難病分野における先進的な事例として評価を受けており、日本肺高血圧・肺循環学会としても AMED が JAPHR に期待している全国的な患者の把握などに関して全面的に JAPHR の支援を継続するだけでなく、懸案となっている専門医・専門施設認定のプラットフォームとして JAPHR を利用していくことを念頭に置いている。

末梢性肺動脈狭窄症 (PPS) の場合、小児発症と成人発症で全く病態が異なる。全国調査が必要かもしれない。

## 審議事項

### 2. 2020 年度八巻賞選考委員会（下川宏明 委員長）

#### 委員の選定

学会奨励賞の研究奨励金が変更になった場合に、次年度より八巻賞の研究助成金を 100 万円とすることにした。

理事会にて異議なく、下川宏明先生に委員長を継続して頂くことになった。

下川宏明先生から、分野を考慮して各領域より委員のご推薦を頂き、理事会にて承認となった。

委員長：下川宏明（東北大学）

委員：佐藤徹（杏林大学）、桑名正隆（日本医科大学）、辻野一三（北海道大学）、小垣滋豊（大阪急性期・総合医療センター）

### 3. 学会奨励賞選考委員会

企業との契約が成立した場合、学会奨励賞規定の変更を行うこととした。

選考委員として、2020 年度は八巻賞の選考委員会委員と重ならないようにする。

応募数の予測ができないため、選考委員数を最大限に増やしておくこととする。

基礎研究賞を 3 名、研究奨励金 50 万円、臨床研究賞を 3 名、研究奨励金 50 万円とする。

#### 選考委員の選定

理事 17 名を基礎と臨床に分けて選考委員会に入って頂くこととした。

渡邊裕司先生と江本憲昭先生は基礎分野の選考委員に入って頂くこととした。

安岡秀剛先生（藤田医科大学 リウマチ・膠原病内科）、田中住明先生（北里大学 膠原病感染内科）に、膠原病内科関係の理事として、山田秀裕先生、吉田俊治先生 ご勇退の後に選考委員として加わって頂くこととした。

選考委員長は、基礎と臨床の双方の調整をとるために巽浩一郎が務めることとした。

YIA 賞と学会奨励賞の同時受賞は認めないこととした。

## 報告事項

### 10. 第 16 回国際エンドセリン学会学術集会（江本憲昭 会長）後援

学会のテーマ：Endothelin: Visiting Old and Learning New

開催責任者：江本憲昭（神戸薬科大学 臨床薬学）、Bambang Widyanoro（インドネシア大学）

開催期間：2019 年 9 月 22 日～9 月 25 日

開催場所：神戸ポートオアシス

江本憲昭会長より学会概要について説明頂いた。

## 審議事項

### 4. 2020 年度 新理事の選任

本学会の事業年度開始日は 2016 年 4 月 1 日である。

理事の再任を 2018 年 6 月理事会（理事の任期は 2 年、再任を妨げない）で行なった。

定款では、理事の再任 選任の年の事業年度の開始日（4 月 1 日）において 65 歳以下である。

2020 年 4 月 1 日において 65 歳以下の場合は再任（任期 2 年間）可能

2020 年 4 月 1 日において 65 歳の理事の先生方の意思確認が必要

2020 年度 理事再任を図る年度となるため、理事継続の意思確認が必要であることを確認した。

膠原病分野で 2 名御退任（山田秀裕先生、吉田俊治先生）。

新理事として安岡秀剛（藤田医科大学 リウマチ・膠原病内科）

田中住明（北里大学 膠原病感染内科）を御推薦いただき、理事会にて承認した。

2020 年度学会奨励賞の選考委員は田中先生、安岡先生に務めて頂くこととした。

2020 年 4 月の理事会にて新理事長を決定することとした。理事会前に自薦・他薦にて理事兆の公募を行い、候補者複数名の場合は無記名投票を準備することとした。